

プレスリリース

東京富士美術館コレクション
ヨーロッパ絵画 美の400年

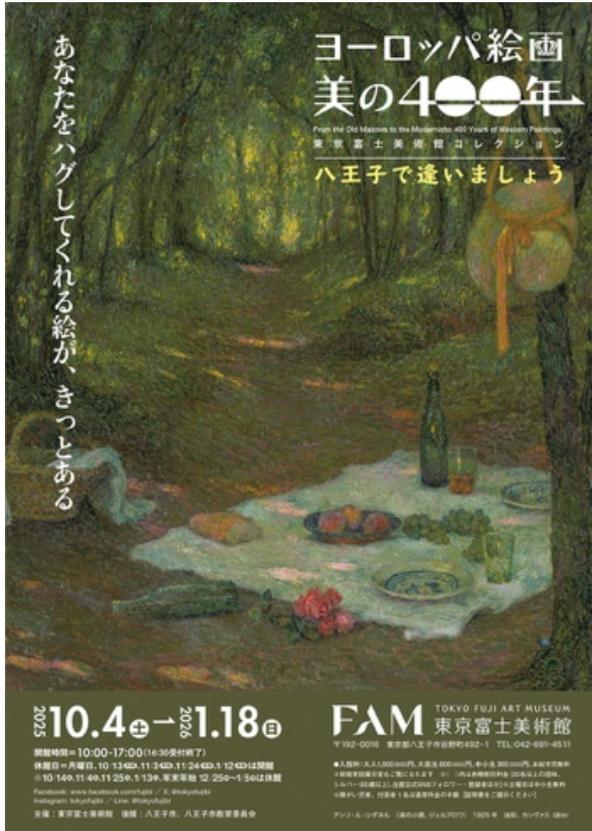
From the Old Masters to the Modernists: 400 Years of Western Paintings

当館の西洋絵画コレクションは、16世紀のイタリア・ルネサンスから20世紀の近現代美術までを網羅しています。

西洋では伝統的に神話画や宗教画が高尚な絵画ジャンルとして重視されましたが、近代になると、斬新な絵画主題の開拓や、造形表現そのものの革新へと画家たちの関心が移っていきました。

モネ、ルノワール、ゴッホ、シャガールといった人気画家のほか、ティントレット、ヴァン・ダイク、クロード・ロランら古典的巨匠など約80点の名画を通して、西洋絵画400年の歴史をたどります。

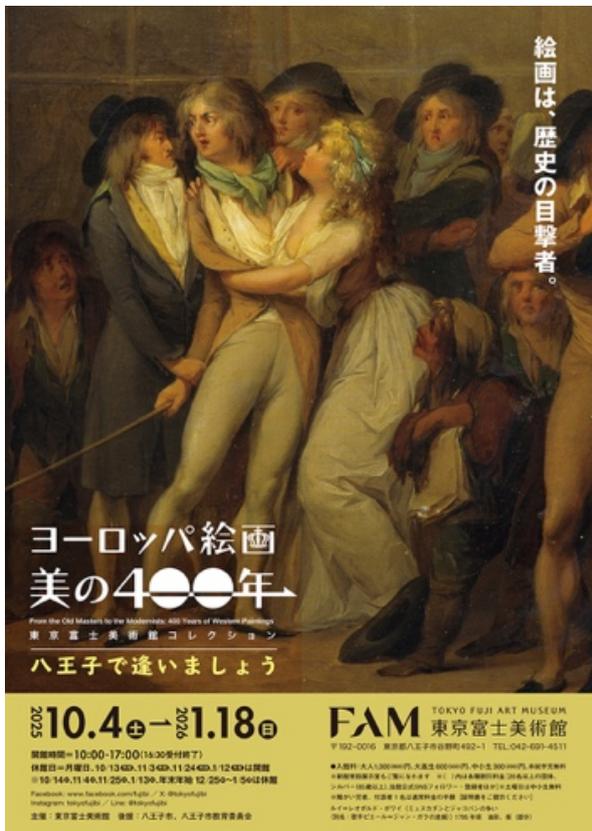
各チラシは添付の URL よりダウンロードできます



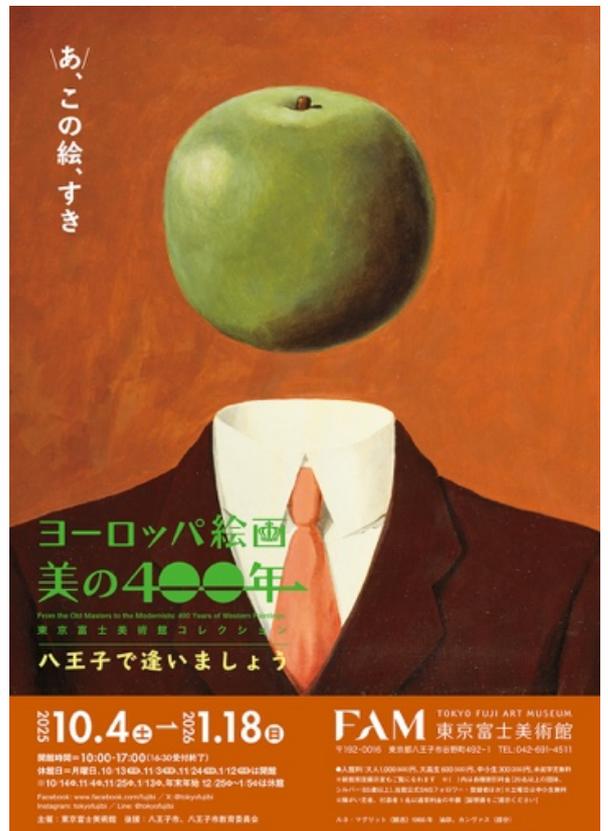
https://www.fujibi.or.jp/assets/tfam/files/pdf_exhibit/4202510041_1.pdf



https://www.fujibi.or.jp/assets/tfam/files/pdf_exhibit/4202510041_2.pdf



https://www.fujibi.or.jp/assets/tfam/files/pdf_exhibit/4202510041_3.pdf



https://www.fujibi.or.jp/assets/tfam/files/pdf_exhibit/4202510041_4.pdf

◆開催概要

展覧会名：東京富士美術館コレクション ヨーロッパ絵画 美の400年

From the Old Masters to the Modernists: 400 Years of Western Paintings

会場：東京富士美術館 本館 企画展示室

〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1 TEL 042-691-4511

会期：2025年(令和7年)10月4日(土)～2026年1月18日(日)

休館日：月曜日

10/13(月・祝)、11/3(月・祝)、11/24(月・休)、1/12(月・祝)は開館

10/14(火)、11/4(火)、11/25(火)、1/13(火)、年末年始 12/25(木)～1/5(月)は休館

開館時間：10:00～17:00(16:30 受付終了)

入場料金：大人 1,000(800)円、大高生 600(500)円、中小生 300(200)円、未就学児無料

※新館常設展示室もご覧になれます

※()内は各種割引料金 [20名以上の団体、シルバー(65歳以上)、当館公式SNS フォロワー・登録者ほか]

※障がい児者、付添者1名は通常料金の半額 [証明書をご提示ください]

主催：東京富士美術館

後援：八王子市、八王子市教育委員会

◆展示構成

掲載の作品についてはキャプションの URL より画像のダウンロードと作品の解説原稿が参照できます

I 絵画の「ジャンル」と「ランク付け」

絵画には、肖像画、静物画、風景画など多様な「ジャンル」が存在します。本展の第 I 部では、この「ジャンル」が特別な意味を持っていた 16 世紀から 19 世紀にかけての作品に焦点を当てます。

西洋絵画の伝統では、「ジャンル」ごとに厳格な序列が設けられていました。最も高貴とされたのは、聖書や神話、歴史を題材とした歴史画です。

これに続き、身分の高い人々を描いた肖像画、庶民の日常を描いた風俗画、そして風景画が位置づけられました。そして最も低位に置かれていたのが、動かないものを描いた静物画です。

このような価値観の背景には、芸術を単なる手仕事と区別し、精神的な営みとして捉える、イタリア・ルネサンス以降の芸術観があります。そこでは、教養や構想力が必要とされる主題ほど価値が高いとされました。

この「ジャンルの序列」は、特に 17 世紀のフランス王立絵画彫刻アカデミー（美術教育機関）において、その重要性をさらに高めていったのです。

I -1. 歴史画 神話、物語、歴史を描く ～絵画の最高位～

歴史画は、単に歴史上の出来事を描いたものだけではありません。神話や古典文学、伝説を題材にした作品や、道徳や学問といった抽象的な概念を表現する寓意画も含まれます。絵画のジャンルの中で最も高位に位置づけられた歴史画を描くには、画家は幅広い知識と高度な技術を求められました。



ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房
《サン＝ベルナル峠を越えるボナパルト》
1805年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/03547/>



ノエル＝ニコラ・コワベル
《ヴィーナスの誕生》
1732年頃 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/00729/>

I -2. 肖像画 王侯貴族から庶民階級へ ～あるべき姿／あるがままの姿～

肖像画の起源は古代エジプトにまで遡り、他の「ジャンル」よりも長い歴史を持っています。16世紀から17世紀にかけて、王侯貴族や裕福な市民の間で肖像画を注文する風潮が広まり、彼らの権力、社会的地位、そして富を象徴する役割を担うようになりました。



ティントレット（ヤコボ・ロブスティ）
《蒐集家の肖像》
1560-65年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/03724/>



アントニー・ヴァン・ダイク
《ベッドフォード伯爵夫人アン・カーの肖像》
1639年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01086/>

I -3. 風俗画 市井の生活へのまなざし

庶民の日常生活を描く風俗画は、市民社会が形成された17世紀のオランダで特に盛んになりました。また、18世紀のイギリスで生まれた「ファンシー・ピクチャー」は、愛らしい衣装をまとった子どもを主題とし、風俗画と肖像画、両方の性質を併せ持っています。



ピエール・ベルゲーニユ
《田園の奏楽》
17世紀後半-18世紀初頭 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01126/>



ジュール・ジェーム・ルージュロン
《鏡の前の装い》
1877年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/00050/>

I -4. 風景画 「背景」から純粋な風景へ ～自然と都市～

長らく人物の後景を彩る副次的な役割と見なされていた風景描写は、17世紀のオランダで風景そのものを主題とした作品が盛んに描かれるようになりました。さらに18世紀以降、風景画の主題はヴェドゥータ（都市景観画）や廃墟画などへと、いっそうの広がりを見せていきました。



サロモン・ファン・ロイスダール
《宿の前での休息》
1645年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01107/>



クロード・ロラン (クロード・ジュレ)
《小川のある森の風景》
1630年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01139/>

I -5. 静物画 動かぬ生命、死せる自然

静物画とは、果物や花、食器といった静止したモチーフを描いた作品です。このジャンルは17世紀のオランダとフランドルで大いに発展し、やがてフランスにも広まっていきました。描かれた個々のモチーフには、単なる物としてだけではなく、人生の儚さや死、富、虚栄といった象徴的な意味が込められていることもあります。



コルネリス・ファン・スペンドック

《花と果物のある静物》

1804年 油彩・カンヴァス

<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01133/>

II 激動の近現代－「決まり事」のない世界

第II部では、19世紀から20世紀にかけての近代絵画に光を当て、この時期の美術界を牽引したフランスの動向を主軸に、主題（描かれたモチーフ）と造形（表現技法）の両側面から、その革新性を考察します。

18世紀後半から19世紀初頭、古代ギリシャ・ローマ美術やルネサンスを範とした新古典主義が隆盛を誇る一方、その反動として、画家の内面や個性を重視するロマン主義が誕生しました。以降、リアリズム、印象主義、象徴主義、フォーヴィスム、キュビズムといった多様な様式が次々と台頭し、旧来のジャンル概念や美術の規範を刷新。これらの前衛的な表現は、以降の美術のあり方を大きく変えることとなります。

II -1. 「物語」の変質

18世紀末から19世紀に登場したロマン主義は、個人の感受性や個性を大切に、画題も同時代の出来事から異国の文化まで広がりを見せました。

その反動として、リアリズム（写実主義）の画家たちは、身近な現実をありのままに描くようになります。1830～40年代には、パリ近郊のバルビゾン村に集まった画家たちが、森や田園を描きました（バルビゾン派）。チューブ入りの絵具が普及し、屋外での制作が身近になると、光の表現を追求する印象派へと引き継がれていきました。

そして20世紀には、現実だけでなく、夢や無意識を描くシュルレアリスムが登場。このように、多様な表現方法が生まれることで、絵画の古い価値観は次々と変わっていったのです。

II -1-1. 物語／現実



ウジェーヌ・ドラクロワ
《手綱を持つチェルケス人》
1858年頃 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01603/>



ジャン＝フランソワ・ミレー
《鶯鳥番の少女》
1866-67年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/00371/>



ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《赤い服の女》
1892年頃 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01097/>



マリー・ローランサン
《二人の女》
20世紀前半 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01268/>

II -1-2. 幻想の世界へ



ルネ・マグリット
《再開》
1965年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/03740/>

II -2. 造形の革新

ルネサンス以降、絵画は二次元平面に三次元の現実世界を再現する手段として探求されました。遠近法や明暗法といった古典的な技法、そして写真のように滑らかな絵肌は、その写実主義的な傾向を反映するものです。

しかし、近代に入ると、絵画は現実の再現から脱却し、色彩や形態、筆触といった造形的な要素そのものが主題となります。中でも筆触は、重要な表現手段へと昇華されました。例えば印象派は、戸外の光を捉えるため、パレット上で絵具を混合せず、純色に近い筆触を画面上に並置する独自の技法を確立します。

また、空間表現においても、平面的な画面構成が志向されたり、複数の視点から捉えたモチーフを統合する「多視点」の構図が創出されたりと、絵画における表現の可能性は多角的に模索されていきました。

II -2-1. 光と色彩の饗宴



アンリ・マルタン
《画家の家の庭》
1902年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01339/>



キスリング
《花》
1929年 油彩・カンヴァス
<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01254/>

II -2-2. フォルムと空間



クロード・モネ

《睡蓮》

1908年 油彩・カンヴァス

<https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/00426/>

◆関連イベント

講演会

「夢の西洋絵画コレクションで語る物語 -展示ストーリーとテーマ、ドラマ-」

日時：10月25日（土）14:00～（約1時間）

講師：岡部昌幸 荏原 畠山美術館館長 帝京大学名誉教授

ワークショップ

「ミクロモザイク体験ワークショップ」

日時：11月16日（日）11:00～/14:00～（各回約2時間）

講師：中野とっと 日本ミクロモザイク協会理事

コンサート

音楽様式の変遷「バロックから近現代まで」

日時：11月23日（日）14:00～（約1時間）

出演：関孝弘 ピアニスト

講演会

「ヨーロッパ絵画の魅力 -伝統から近代へ-

日時：12月6日（土）14:00～（約1時間）

講師：三浦篤 大原美術館館長／國學院大学教授 東京大学名誉教授

◆東京富士美術館について

当館は 1983 年 11 月、東京・八王子市に設立された総合的な美術館です。コレクションは日本・東洋西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約 30,000 点で形成されています。

「世界を語る美術館」を“永遠の指針”としてこれまで各国地域の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を国内外で活発に開催し、1990 年には日本の外務省より「外務大臣表彰」を受彰。2008 年には新館がオープンし、常設展示室ではルネサンスからバロック・ロココ・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代にまで至る西洋絵画 500 年の油彩画コレクションが一望できるようになりました。



問い合わせ先：TEL 042-691-4511 FAX 042-691-4623

E-mail: toiawase@fujibi.or.jp